

# ことばを学ぶ メカニズム

## 認知科学からのアプローチ

今井むつみ  
Imai Mutsumi

### 第11回 英語の語彙ネットワークをつかみ取る

#### ❖ 英語の語彙ネットワークを作る

ネイティブのような英語を話せる、書けるというのは外国語学習者にとっては大きな目標だろう。では、どうしたらその目標に近づくことができるのか。

英検、TOEIC や TOEFL などが高得点を取るためにはたくさんの単語を知っていなければならない。しかしほんとうに英語を実践的に使うためには、ネイティブのような語彙ネットワークをもつことが大事だということをこれまで繰り返し述べてきた。ネイティブは単に単語をたくさん知っているだけではない。一つ一つの単語について、様々な関係の単語のネットワークが想起され、他の単語との関係でそれぞれの単語の意味が理解されていることが大事である。そのようなネットワークの中で、多くの単語に共通する「パターン」の知識が抽出され、それぞれの単語の意味の違いが整理されるのである。

しかし学習者が外国語のネットワークをつくるにはどうしたらよいのだろうか。筆者は、何かターゲットとなる単語を見つけ、そこから部分的なネットワークをつくり、それを広げていく方法をお勧めする。語彙ネットワークを作る上で外国語学習者にとって難しいことは主に2点ある。まず、知っている単語の数が少ないので、関連語を探すのが難しい。そして、関連語、特に類似の意味を持った単語同士の意味がどのように違うのか、それらをどのように使い分けるのかを見極めるのが難しい。この2つの問題を克服していくために、先月号で最後に取り上げた動詞 wander をターゲ

ットにしたネットワークを考えてみよう。

#### ❖ WordNet を使って語彙ネットワークを調べる

このようなときに便利なのが WordNet というオンラインツールだ。これはプリンストン大学のチームが作成した素晴らしいシステムで、言語研究者の多くがその恩恵を受けているが、学習者にとっても非常にありがたい学習ツールである。無料で使えるのでこれを利用しない手はない。

WordNet Search 3.1 (<http://wordnetweb.princeton.edu/perl/webwn>) を使って wander を見てみよう。この動詞にはいくつかの語義があり、語義によって整理されて語積、類義語、例文などをみることができる。(以下は紙幅の都合上、一部を抜粋して掲載する) 例えば最初の語義 (S=Synset (semantic) relations) では〈move about aimlessly or without any destination, often in search of food or employment〉とあり roll, swan, stray, roam, drift などが類義語として挙げられている。4番目の語義では〈to move or cause to move in a sinuous, spiral, or circular course〉が挙げられ wind, weave, meander などの類義語が挙げられている。それぞれの語義で、例文もあり、例えば最初の語義 (S) では “The gypsies roamed the woods”; “the wandering Jew”; “The cattle roam across the prairie”; “the laborers drift from one town to the next”; “They rolled from town to town” という文が挙げられていて、これらの単語に共通して使われる前置詞の構文がなんとなくわかる。4番目の語義 (S) では “the

river winds through the hills”; “the path meanders through the vineyards”; “sometimes, the gout wanders through the entire body” のような例文があるので、これはたぶん川や道など無生物がくねりながら延びている様を表している単語群なのだろうと予想がつく。それぞれの (S) の下をクリックしてみると **troponym** (その単語よりさらに下位に位置づけられる単語) や **hypernym** (その単語を包含する抽象度の高い単語, wander の最初の語義だと travel, go, move など) や, **derivationally related form** など, その単語からの派生語, 関連語 (wanderer, wandering) などのリンクがある。派生語を見ていくことは語彙のネットワークを作っていく上でとても有効だし、いろいろな単語をターゲットにしてみえていくと、名詞から動詞, 動詞から名詞, 名詞から形容詞に派生するときの「パターン」を理解することができる。

WordNet を使って「遊んで」みると、単語同士が織りなすクモの巣のようなネットワークがうっすらと見えてくる。例えば, wander の類義語に swan という動詞がある。筆者は白鳥の swan に動詞があるのも知らなかったし, それが wander となぜ関係するのか想像もつかなかった。白鳥というのは鳥の王者のような威厳があり, それが転用されて, 偉そうに, 堂々と, というニュアンスで, あちこち当てもなく移動するという意味になったようである。動詞の swan にはそのほかにも王者のように堂々と大空を滑空する, という

ような語義もあるようだ。

WordNet のビジュアル版もある。Visuwords という。これも無料で使用できる (<http://visuwords.com/>)。WordNet のようにそれぞれの語義や類語からのリンクがないので、個別の単語の意味の深掘りはできないが、ターゲットの単語を中心にそれと関係した単語たちのネットワークを大づかみに見るには便利だ。例えば swan を見てみると、おおよそ下の図が表示される。ここでは白黒でしかお見せできないが、実際にはカラー表示で、色によって、動詞、名詞、形容詞の区別や、単語同士の関係性を示している。右側の大きな鳥のまともは名詞「白鳥」の意味の swan を中心にしたネットワークである。それぞれの丸のところにカーソルを近づけると語義が表示され、白鳥の幼鳥が cygnet であるとか、オスの成鳥は cob であるとか、白鳥の上位概念の水鳥のことは aquatic birds というなどがわかる。左側は動詞 swan が表示され、この動詞の3つの語義の項目があり、そのうちの1つが, wander と類義の swan であることがわかる。

このように Visuwords でターゲットの単語を中心にしたネットワークを大雑把に捉えつつ、WordNet でより精緻に単語間の関係やそれぞれの単語の多義の構造を探っていくというように、2つを併用するのが有効だ。このような語彙の学習のしかたは、学習者に多くの気づきを与えるはずだ。(慶應義塾大学教授)

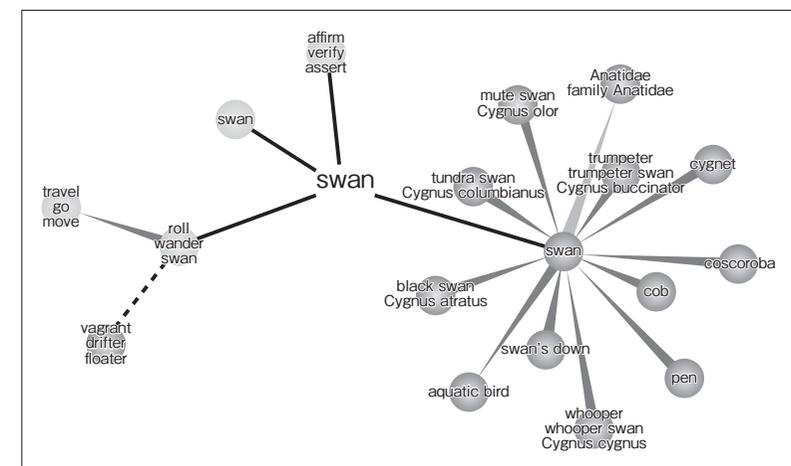


図 swan の Visuwords 例